

# 学力向上ポートフォリオ(児童生徒版)の見方

お子さんと一緒に学習や生活について振り返り、次年度に向けての目標を立てることを通して、お子さんの頑張りを認めたり、励ましたりする資料として御活用ください。

## 生活習慣等に関する調査

—さいたま市の中学校第1学年の回答状況と自分の回答状況—

質問項目の内、さいたま市が重視している12項目を抜粋して掲載しています。

さいたま市の回答状況と比較しながら、自分の回答を振り返ることができます。

目標に対するコメントを記入するなどして、お子さんの頑張りを認め、励ますために御活用ください。

質問項目	さいたま市の回答状況	自分の回答状況
将来に関する意識		
① 将来の夢や目標を持っている。	60.0 %	
学校生活等		
② 学校に行くのは楽しい。	40.0 %	
自尊意識		
③ ものこを最後までやり遂げてうれしかったことがある。	40.0 %	
	80.0 %	◎
	80.0 %	◎
	80.0 %	◎
⑦ 毎日、同じくらいの時刻に寝ている。	40.0 %	
学習時間等		
⑧ 家で自分で計画を立てて勉強をしている。	60.0 %	◎
⑨ 読書が好き。	60.0 %	
キャリア教育		
⑩ 学ぶことや働くことの意味、自分の将来との関係について考えている。		
規範意識		
⑪ 学校のきまり(規則)を守っている。		
家庭でのコミュニケーション		
⑫ 家の人と学校での出来事について話をしている。	20.0 %	

### 表の見方

○さいたま市の回答状況  
今回のさいたま市学習状況調査「生活習慣等に関する調査」の問題目、肯定的な回答(「もっている」「どちらかといえば、もっている」や「している」「どちらかといえばしている」など)を選択した中学校第1学年の生徒の割合(%)を示しています。

○自分の回答(今回)  
自分が、肯定的な回答をした質問項目に◎が表示されています。

調査結果から、自分の生活で見直したいと思うことを記入して、今後の生活に生かしましょう。

## 令和元年度 さいたま市学習状況調査【中学校第1学年】

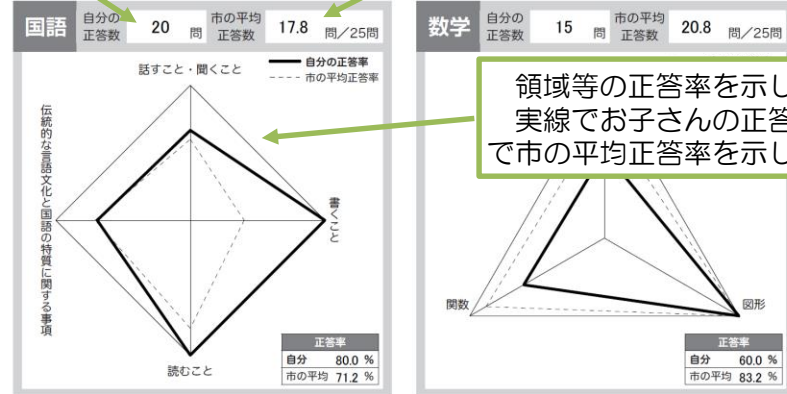
### 学力向上ポートフォリオ(児童生徒版)

## 学力に関する調査

—さいたま市の平均正答率と自分の正答率を比べて、自分の成果と課題をみつめよう—

お子さんの正答数を示しています。

市の平均正答数を示しています。分母は問題数を示しています。



- 正答数  
本調査は、一つ一つの問題に正答できたかどうかをみるために実施しています。そのため、点数ではなく、正答数(正答の合計数)で示しています。
- 市の平均正答率  
さいたま市の児童が、各領域や内容の問題に正答した割合(%)を示しています。
- 自分の正答率

「学力向上ポートフォリオ(児童生徒版)」は、通知表用のファイルに綴じるなどして、お子さんの成長物語として御活用ください。

保護者より

---



さいたま市教育委員会

1年 組 番

---

名前

【令和元年度発行】  
さいたま市立教育研究所

「学力に関する調査」の各設問ごとの解答状況等を確認することができます。  
 保護者の皆様は、お子さんの努力を認め、称賛するとともに、どこにつまずきがあるのか一緒に考え、お子さんの学習意欲の向上に御活用ください。

## 令和元年度 さいたま市学習状況調査【中学校第1学年】

1年 組 番 名前

### 調査結果表

#### 国語

さいたま市の生徒が各設問に正答した割合(%)を示しています。  
 ○：正答 ×：誤答 -：無解答

領域	大問	小問	平均正答率	自分	設問のねらい
読む	1	1	40.0	○	登場人物の相互関係や心情描写に注意して読み、内容の理解に役立てているかどうかをみる。
		2	100.0	○	登場人物の相互関係や心情描写に注意して読み、内容の理解に役立てているかどうかをみる。
		3	100.0	○	場面の展開や描写に注意して読み、内容の理解に役立てているかどうかをみる。
		4	80.0	○	場面の展開や描写に注意して読み、内容の理解に役立てているかどうかをみる。
	2	1	80.0	○	文脈の中における語句の意味を的確にとらえ、理解しているかどうかをみる。
		2	100.0	○	文脈の中における語句の意味を的確にとらえ、理解しているかどうかをみる。
		3	80.0	○	文章の中心的部分と付加的な部分とを読み分け、要約したり要旨をとらえたりしているかどうかをみる。
		4	60.0	○	文章の中心的部分と付加的な部分とを読み分け、要約したり要旨をとらえたりしているかどうかをみる。
聞く・話す・書く	3	1	40.0	×	目的や意図に応じて、話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方などについての知識を生かし、相手の反応を踏まえながら話すことができるかどうかをみる。
		2	60.0	○	収集した知識や情報を関係付けすることができるかどうかをみる。
		3	80.0	○	相手に分かりやすい語句の選択、相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かして話すことができるかどうかをみる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	4	1	60.0	○	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる。(管理)
		2	100.0	○	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる。(積極)
		3	60.0	×	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる。(満ちて)
		4	40.0	×	文脈に即して漢字を正しく読むことができるかどうかをみる。(設ける)
		5	40.0	×	文脈に即して漢字を正しく読むことができるかどうかをみる。(快く)
		6	100.0	○	文脈に即して漢字を正しく読むことができるかどうかをみる。(貿易)
	5	1	100.0	○	主語と述語の関係について理解しているかどうかをみる。
		2	100.0	○	修飾語と被修飾語の関係について理解しているかどうかをみる。
		3	80.0	○	接続語の働きについて理解しているかどうかをみる。
		4	60.0	×	漢字の筆順を理解しているかどうかをみる。
6	5	40.0	○	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる。	
	6	100.0	○	慣用句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことができるかどうかをみる。	
	7	100.0	○	文脈の中における表現の工夫やその効果を理解しているかどうかをみる。	
こ書とく	6	40.0	○	考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理し、引用したり、図表などを用いたりして、根拠を明確にして自分の考えをまとめているかどうかをみる。	

問題ごとの市の平均正答率を示しています。

#### 数学

国語と数学の平均正答率に網掛けがついている問題は、小学校6年生のときに出题された問題と似た問題が出题されています。昨年度の個人票を見直し、自分の学力の伸びを確かめましょう。



今年度	アドバイス
○	さらに、いろいろな問題にチャレンジしてみましょう。
×	同じような問題をくり返し解いて、力を伸ばしていきましょう。

領域	大問	小問	平均正答率	自分	設問のねらい
数式	1	(1)	80.0	○	小数の減法の計算をすることができる。
		(2)	100.0	○	分数の意味を理解している。
	2	(1)	80.0	○	素因数分解をすることができる。(H30小6大問5と類似)
		(2)	80.0	×	整式の加法と減法の計算をすることができる。
		(3)	100.0	○	整式の乗法の計算をすることができる。
図形	1	(3)	100.0	○	三角柱の体積を求めることができる。
		(4)	100.0	○	点対称な図形を完成させることができる。
		(5)	40.0	○	場面と図とを関連付けて、二つの数量の関係を理解している。
		(1)	80.0	○	素因数分解をすることができる。(H30小6大問5と類似)
	2	(1)	100.0	○	素因数分解をすることができる。(H30小6大問5と類似)
		(2)	80.0	×	整式の加法と減法の計算をすることができる。
		(1)	100.0	○	整式の乗法の計算をすることができる。
		(2)	100.0	○	整式の乗法の計算をすることができる。
		(1)	80.0	○	一元一次方程式の解の意味を理解している。
		(2)	80.0	×	比例式を解くことができる。
関数	7	(1)	80.0	×	与えられた文字式の意味を、具体的な事象の中で読み取ることができる。
		(2)	100.0	○	方程式を解く場面における等式の性質の用い方について理解している。
	8	(1)	80.0	×	具体的な事象における数量の関係をとらえ、一元一次方程式をつくることができる。
		(2)	60.0	×	与えられた説明の筋道を読み取り、事象を数学的に表現することができる。
	9	(1)	60.0	-	与えられた説明の筋道を読み取り、事象を数学的に表現することができる。
		(2)	60.0	×	与えられた説明の筋道を読み取り、事象を数学的に表現することができる。
		(1)	80.0	×	比例の式から、グラフをかくことができる。
		(2)	80.0	×	反比例のグラフから、式をつくることができる。
10	(1)	100.0	○	具体的な場面において、与えられた情報を用いて問題を処理することができる。	
	(2)	100.0	○	xの変域について与えられた情報から、yの変域を求めることができる。	
	(3)	80.0	○	具体的な場面において、2つの数量の関係が比例であることを判断し、その理由を説明することができる。	
式数と	12	100.0	○	三つの実験から分かることを基に筋道を立てて考え、表のまとめ方に即して、重さの範囲について言葉を用いて記述し、その範囲に当てはまる重さを選択できる。	

昨年度にも似ている問題が出题されていることを示しています。過去のポートフォリオを使用すると調査結果を比較することができます。

国語でがんばりたいこと

数学でがんばりたいこと

調査結果を見て、お子さんが教科ごとに「がんばりたいこと」を記入する欄です。